

## 第6回 総会&研修を開催しました /5月23日/JAしまね津田支店3F

2019年度 正会員11団体の全出席（委任状2団体）を得て、地域つながりセンター第6回総会を開催することができました。

他にも、オブザーバー19名の方にご参加いただきました。



今年度の議長には、出雲医療生協 常務の小澤さんが選出されました。

会員、賛助会員そして、多くの皆様のご協力により、無事に2018年度の事業が終了した旨の報告ならびに決算報告を行いました。

続いて、監査報告を頂きました。そして、2019年度事業計画案および予算案についても、すべてご承認いただきました。ありがとうございました。

18年度の事業は、フードバンクしまね“あったか元気便”の試行や“なないろ食堂”等、地域のつながりづくりの拠点としての活動報告を中心に行いました。

また、おたがいさま活動支援については、赤い羽根共同募金で作成した「おたがいさまリーフレット」やチラシを、県内はもとより県外の皆さまにも見て頂きたいと東京、名古屋、大阪等の県人会への送付を報告しました。島根に住



む家族や親戚、知り合いを心配する方々に届くよう願っています。

今年度も会員団体の皆様、賛助会員の皆様、地域の皆様にご支援とご協力をいただきつつ、2つの基本方針に沿った具体的な活動をすすめます。今年度よりフードバンクしまね“あったか元気便”の事務所として、広報や連絡体制など事務所機能の整備にも取り組む予定です。

さて、昨年度の話し合いを形にすべく、新たに「交流・研修」企画にも取り組みます。たくさんの方にご参加いただき、会員及び賛助会員のお互いの交流や理解の場になることはもとより、関心を寄せて下さる会員の広がりをめざしたいと思います。



今年度も総会にあわせて研修を行いました。

出雲市伊野地区で、独自の地域づくりを実践されている伊野自治協会 会長の多久和氏をお招きし「わがこと」の視点を大切にしたお話を聞かせて頂きました。（次ページ）

今年度も「安心して暮らせ、住んでいて楽しくなる地域づくり」の実現に向け創意工夫してまいります。皆様よろしくお願い致します。

（高橋）

### 地域つながりセンター 基本方針

- 誰もが“自分らしく生きること”を大切に、地域の中で医療・介護、そして暮らしをつなぎ「より多くの方が安心して住み続けられる地域づくり」をめざします。
- 「おたがいさま」の活動（価値）を広げ、日々の暮らしに、元気、温かさ、安心感が生まれ、広がることをめざします。

## 「10年後の伊野を考える」伊野自治協会 会長 多久和祥司さん

“地域づくり”のヒント、みつけませんか！と呼びかけ、総会研修を行いました。

講師は、出雲市野郷町 伊野地区自治協会 会長 多久和祥司さんです。

伊野地区（島根半島の真ん中あたり～松江市隣接の出雲市）では、2012年、伊野小学校と隣接の小学校との統合問題が持ち上がりました。2年



余りにわたる議論の末、存続を決定したそうです。統合を望む保護者の意見も多くある中で、の苦渋の決断。そうであれば、「存続してよかった！と思える学校づくり」「持続可能な

コミュニティ」をめざしたい！と、自治協会、コミュニティセンター、そして学校の連携による地域を挙げた取り組みが始まりました。大きな特徴は3つです。

- (1) まちづくりと学校をつなげた教育の魅力化
- (2) 全員参加のまちづくり
- (3) 地域外の人々との協働によるまちづくり

### (1) まちづくり×学校～子育てするなら伊野で

小学生がかいがいしく働く、小学生参加の産地直売所「伊野いち」。その「伊野いち」で学んだ小学生が国語の教科書にある「町の幸福論」を学習し、「伊野の将来デザイン」を考え、地



域住民の前で提案。フリーペーパーづくり、町の良さを知るクイズラリー、国際ワークキャンプへと発展しています。

### (2) まちづくり×関係人口 ～伊野の応援団～ で活動の輪を広げる

伊野地区出身者や関心を寄せる方々に呼び

(感想) 中山間地域はつつい色々な事をマイナスに考えがちですが、ちょっと見方を変えることで住んでもいいなあと思える気がしました。特に子どもや若い人が主体的に関わり、楽しんでいる状態がいいなあ。子どもの“存在”って大事です！明るい気持ちになりました。

かけた“伊野ふるさと会員”（伊野のまちづくりサポーター；1口5千円）に108人75万円の協力があり、町の幸福論の著者/山崎亮氏の出前授業と講演会を企画。さらには、少人数で割高になる修学旅行費用を助成した。今後は会員との交流企画も考えています。

大学生とのコラボで「伊野の自然を舞台にこどもの遊びをつくる」をコンセプトに、遊びを通して心と体を開放する活動＝「伊野バージョン」は、伊野の代名詞となっています。

### (3) 「町の幸福論」を考える“まちづくりトーク”～コミュニティの持続可能性に挑む～

まちづくりは「わがこと」～10年後の伊野を考えるムービーを作成し、これをすべての集落で上映し10年後の伊野を考える「まちづくりトーク」を展開中。

この日も、その動画を見せて頂きました。動画を通して様々な課題が見えてきます。深刻な意見も多い中、人々の声をつなげ、それぞれが身の丈に応じた関わり方を考えていきたいとのことでした。地区の人口は、現在1,300人350世帯ですが、10年後は1,050人と予想されます。時間のない中で、伊野の将来デザインを地域の皆で考え、地道な作業の積み重ねが成否のカギと、多久和さん。会場は、総会参加者以外に、若い女性や民生委員さんなども参加。

様々な世代や立場でお話をきくことができました。もう少し時間があつたらと反省しました。



ぜひ、皆さんも、伊野地区のお話を聞かれませんか？楽しく、ヒントの詰まった「地域づくり」のお話です。 (野津)

(感想) とても切実な問題です。発想と取り組みがとても魅力的でした。地域で話し合いが出来たことは、私たちには不思議なくらいです。高齢化した地区で高齢者を支える方法も聞きたかったです。

子どもが生き生きしていると高齢者も生き生きしてきます。私も今後の活動に活かしていきたいです。